

A-103 内科（必修）-感染症・総合内科プログラム

1 概要

当院の内科（必修）研修24週では、一般内科16週、心臓内科4週、神経内科4週に分けてローテーションを行いながら研修する。このプログラム（A-103）は一般内科で16週の内科（基本研修）を行う際、感染症・総合内科で研修する際のプログラムである。

研修指導責任者

感染症・総合内科 椋田権吾

2 目標

(1) 中央病院GIO

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、県の基幹病院での研修を通じ、将来の専攻する診療科にかかわらず臨床に必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を修得する。

(2) 一般目標（内科（必修）研修GIO）

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、内科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力（態度、技能、知識）を修得する。

一般目標（内科（必修）-感染症・総合内科研修GIO）は上記の内科（必修）研修GIOと同じ

(3) 行動目標（内科（必修）-感染症・総合内科研修SB0s）

下記のPG-EPOCで定める目標とする。

PG-EPOC で定める目標

1 内科で必ず修得しなければならないPG-EPOC 項目（マトリックス表で◎）

I 到達目標

A 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

A-1 社会的使命と公衆衛生への寄与

A-2 利他的な態度

A-3 人間性の尊重

A-4 自らを高める姿勢

B 資質・能力

B-1 医学・医療における倫理性

B-2 医学知識と問題対応能力

B-3 診療技能と患者ケア

B-4 コミュニケーション能力

B-7 社会における医療の実践

B-8 科学的探究

B-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

C 基本的診療業務

C-2 病棟診療

C-2-1 入院診療計画の作成

C-2-2 一般的・全身的な診療とケア

C-2-3 地域医療に配慮した退院調整

C-2-4 幅広い内科的疾患に対する診療

II 実務研修の方略

⑬-1) 全研修期間 必須項目

⑬-1)- i 感染対策（院内感染や性感染症等）

⑬-1)- ii 予防医療（予防接種を含む）

⑬-1)- iv 社会復帰支援

⑬-1)- v 緩和ケア

⑬-1)-vi アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

⑬-1)-vii 臨床病理検討会（CPC）

⑬-2) 全研修期間 研修が推奨される項目

⑬-2)- ii 薬剤耐性菌

⑬-2)-iv 診療領域・職種横断的なチームの活動

経験すべき症候（29症候）

1 ショック

2 体重減少・るい瘦

3 発疹

4 黄疸

- 5 発熱
- 7 頭痛
- 8 めまい
- 9 意識障害・失神
- 10 けいれん発作
- 13 心停止
- 14 呼吸困難
- 16 下血・血便
- 17 嘔気・嘔吐
- 18 腹痛
- 19 便通異常（下痢・便秘）
- 21 腰・背部痛
- 22 関節痛
- 23 運動麻痺・筋力低下
- 24 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
- 25 興奮・せん妄
- 26 抑うつ
- 29 終末期の症候

経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）

- 1 脳血管障害
- 2 認知症
- 4 心不全
- 6 高血圧
- 7 肺癌
- 8 肺炎
- 9 急性上気道炎
- 10 気管支喘息
- 11 慢性閉塞性肺疾患（COPD）
- 12 急性胃腸炎
- 13 胃癌
- 14 消化性潰瘍
- 15 肝炎・肝硬変
- 16 胆石症
- 17 大腸癌
- 18 腎盂腎炎

- 19 尿路結石
- 20 腎不全
- 22 糖尿病
- 24 うつ病
- 26 依存症（ニコチン・アルコール・薬物）病的賭博）

②病歴要約

退院時要約

その他（経験すべき診察法・検査・手技等）

④ 臨床手技

⑨ 穿刺法（胸腔、腹腔）

⑤ 検査手技の経験

超音波検査

⑥ 地域包括ケア・社会的視点

けいれん発作

心停止

腰・背部痛

抑うつ

脳血管障害

認知症

心不全

高血圧

肺炎

慢性閉塞性肺疾患

腎不全

糖尿病

うつ病

依存症

⑦ 診療録

日々の診療録（退院時要約を含む）

入院患者の退院時要約（考察を記載）

各種診断書（死亡診断書を含む）

2 内科で修得するのが望ましいPG-EPOC 項目 (マトリックス表で○)

I 到達目標

B 資質・能力

B-5 チーム医療の実践

B-6 医療の質と安全管理

C 基本的診療業務

C-1 一般外来診療

C-1-1 症候・病態についての臨床推論プロセス

C-1-2 初診患者の診療

C-1-3 慢性疾患の継続診療

C-3 初期救急対応

C-3-1 状態や緊急度を把握・診断

C-3-2 応急処置や院内外の専門部門と連携

C-4 地域医療

C-4-1 概念と枠組みを理解

C-4-2 種々の施設や組織と連携

II 実務研修の方略

④内科分野 (24週以上)

入院患者の一般的・全身的な診療とケア

幅広い内科的疾患の診療を行う病棟研修

⑩一般外来 (4週以上必須、8週以上が望ましい)

初診患者の診療

慢性疾患の継続診療

経験すべき症候 (29症候)

6 もの忘れ

11 視力障害

12 胸痛

15 吐血・喀血

20 熱傷・外傷

27 成長・発達の障害

28 妊娠・出産

経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）

3 急性冠症候群

5 大動脈瘤

21 高エネルギー外傷・骨折

23 脂質異常症

25 統合失調症

②病歴要約

診療情報提供書

患者申し送りサマリー

転科サマリー

週間サマリー

その他

①医療面接

緊急処置が必要な状態かどうかの判断

診断のための情報収集

人間関係の樹立

患者への情報伝達や健康行動の説明

コミュニケーションのあり方

患者への傾聴

家族を含む心理社会的側面

プライバシー配慮

病歴聴取と診療録記載

②身体診察（病歴情報に基づく）

診察手技（視診、触診、打診、聴診等）を用いた全身と局所の診察

倫理面の配慮

③臨床推論（病歴情報と身体所見に基づく）

検査や治療を決定

インフォームドコンセントを受ける手順

Killer diseaseを確実に診断

④臨床手技

移送

胃管の挿入と抜去

中心静脈カテーテルの挿入

動脈血採血・動脈ラインの確保

全身麻酔・局所麻酔・輸血

①気道確保

②人工呼吸（バック・バルブ・マスクによる徒手換気含）

⑫胃管の挿入と管理

⑥地域包括ケア・社会的視点

もの忘れ

妊娠・出産

統合失調症

3 方略 (LS)

指導医数 1 名

(1) 一般内科での指導には、2名以上の異なる専門を有する医師が担当する

(2) 研修期間は4ヵ月

(3) 同時研修の制限を特に設けない

(4) 場所は外来、病棟、内視鏡室、検査室、放射線室など

(5) 症例ごとに指導医・上級医とマンツーマンで研修する

(6) 研修医は指導医の下、10名程度の入院患者を担当する

(7) プログラムで決められた到達目標が達成されるように、症例を受け持つ

(8) 院内外カンファランス、CPC、学会への参加、発表を通じて文献検索能力、EBM実践、研究への興味など身につける

(9) 最低年4回開催するCPCに出席する（必修）

(10) 受け持ち患者以外にも交代で剖検助手を務める

(11) 上部消化管内視鏡、CVCについては、はじめにシミュレーターを利用する

週間予定例

	午前	午後	その他
月	外来・病棟診療	病棟業務	病棟カンファランス
火	救急外来診療	病棟業務	
水	内視鏡検査	救急外来診療	
木	外来・病棟診療	救急外来診療	感染症・総合内科カンファランス
金	外来・病棟診療	病棟業務	

カンファランス等

症例検討（感染症・総合内科カンファランス） 週1回

振り返り（毎日）

4 評価（EV）

(1) 形成的評価（フィードバック）

知識（想起、解釈、問題解決）については随時おこなう
態度・習慣、技能についても随時行う。

技能についてはチェックリスト、評定尺度の使用を推奨
態度・習慣については観察記録の使用を推奨

(2) 総括的評価

指導医は研修担当期間が終了する時点で、PG-EPOC の評価入力を行う。